

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	ながおか医療生活協同組合	代表者	羽賀 正人	法人・事業所の特徴	市内で診療所、こどもクリニック、歯科クリニック等の医療サービスや様々な介護保険事業を運営している法人が2010年4月に開設。地域交流スペース「わいが家」を併設し、地域住民との交流の場になっている。診療所、居宅介護支援事業所をはじめとした複数の同法人事業所が近隣にあり連携に努めている。ご利用者ひとりひとりの笑顔を引き出す事を目指し柔軟性ある個別ケアに取り組んでおり、近年は感染症予防対策を行いながら近隣のこども園との交流も行っている。
事業所名	プラット新町	管理者	松本 優子		

出席者	市町村職員	1人	知見を有するもの	2人	地域住民・地域団体	3人	利用者	1人	利用者家族	1人	地域包括支援センター	1人	近隣事業所	3人	事業所職員	3人	その他	0人	合計	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>●積極的な研修への参加の呼びかけと、参加ができた職員への伝達講習の実施を行い学びの機会を増やす。</li> <li>●全職員が参加できるように部会にて事業所自己評価についての学習会を実施する。</li> <li>●担当職員紹介シートの作成担当者を決め、シートの作成から相談し、ご利用者、ご家族から相談しやすい関係づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実際に研修に参加できなかった職員より伝達講習を実施してもらい、全職員で研修内容を共有し学びを深められた。</li> <li>●事業所自己評価の具体的な取り組みは部会で説明。スタッフ個別評価の後、事業所自己評価・改善計画の話し合いをした。</li> <li>●担当職員紹介シートは作成には至らなかったが、利用者担当職員と認識してもらえらるよう、積極的な声がけをして関係構築に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研修に参加できている職員数は限られているため、研修に参加された職員は職員全体の代表として参加する事を意識して、効果的（実際の業務に役立つような）な伝達講習をすることが重要だと思ふ。研修の報告書を分かりやすくして、いつでも見る事ができるような工夫も良いのでは。</li> <li>●研修参加が少ないのは学習意欲の低下？が考えられる。</li> <li>●『担当職員紹介シート』の内容について話し合い検討してはどうか。</li> <li>●『担当職員紹介シート』はその担当を決めた方が良いのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『担当職員紹介シート』の作成にむけ役割分担や内容の検討・完成を目指す。それを活用し担当職員としてご利用者・ご家族から相談しやすい関係づくりをする。</li> <li>●事前訪問にはできる限り現場職員も同席できるように配慮し、初回利用時よりご本人やご家族から安心してサービスを利用していただけるようにする。</li> <li>●研修・勉強会の予定を計画的に立て、職員全員で学びを深める。伝達講習の場合は、講習後でもその資料がいつでも閲覧できるようにスタッフルームに置く。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●玄関前の看板に季節に応じた飾りつけを行ったり、プランターに植えた花を飾る等の環境整備を行い施設に入りやすい環境を作っていく。</li> <li>●継続して地域交流スペースにご利用者が作成した壁画、活動写真を掲示し、事業所の様子を知らせて頂けるよう取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●玄関前の看板に季節感にあふれた装飾をしたり、プランターや植え込みに花や野菜を植えたりし、施設に親しみや潤いを感じて頂けるような環境作りをした。</li> <li>●地域交流スペースに、ご利用者が作成した作品や日々の活動写真を掲示し、地域住民やわいが家に訪れる方に事業所の様子を見てもらえらるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●季節感のある装飾作りはご利用者にとって作る楽しみや見てもらえる喜びがあり、次への意欲にも繋がって良い取り組みだと思ふ。</li> <li>●装飾やプランターの植え込み等、環境作りの工夫がなされている。</li> <li>●作品は中に入らないと見ることとはできないのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●玄関前に季節の花々を植えたプランターや看板にご利用者の作品や季節に応じた飾り付けを施すなど、施設に入りやすい環境を作る。</li> <li>●地域交流スペースにご利用者が作成した壁画、活動写真を定期的に掲示するとともに、ご利用者やご家族・地域の方々から作品を見に来ていただけるように、案内</li> </ul>

				<p>文やチラシの掲示・広報紙で『お知らせ』を載せるなどして、施設を知っていただけによるような取組みをする。</p>
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>●感染予防対策を行いながら子ども園との交流を実施していく。 ●対面交流が難しい場合も考え、子ども園の先生と相談しながらオンライン交流も行える体制を整えていく。 ●年4回の施設広報誌を回覧板に入れさせて頂き、少しでも地域の方に事業所を知って頂く取り組みを行っていく。</p>	<p>●子ども園の行事やイベントに合わせ、記念品やプレゼントをご利用者とともに作成し、感染予防対策のもと直接子ども園のこともたちに手渡し、交流することができた。 ●子ども園とのオンライン交流の検討をしたが、体制作りには至らなかった。 ●年4回の施設広報誌を町内の回覧板で回覧してもらい、地域住民に事業所を知って頂くとともに、相談してもらえよう窓口を記載した。</p>	<p>●最近ではおじいちゃん、おばあちゃんとの会う機会も少ないと思えますので、良い取り組みだと思おう。 ●コロナ禍であり無理だと思おう。 ●写真をみて関わりが分かった。 ●広報誌を利用し、地域の方に知られている。</p>	<p>●感染予防対策を行いながら、子ども園との交流を継続していく。 ●年4回の施設広報誌を回覧板に引き続き入れさせていただく。 ●交流スペースに展示しているご利用者の作品を見ていただけるように、『お知らせ』を回覧板に入れさせていただけき、地域の方に事業所の活動を知ってもらえるようにする。 ●コミュニティセンターと関係を構築し、地域の情報を共有できるような取組みをする。</p>
<p>D. 地域に向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<p>●1年を通して、ご利用者と担当職員が行ってみたい所、やってみたいことを実現させる取り組みを行いご利用者・ご家族との関係構築にも努めていく。 ●感染予防対策を行いながら、わいが家にて介護相談会・懇親会を開催できる取り組みを行う。 ●より多くの地域住民の方に相談窓口を知って頂く為に広報誌にて発信を行っていく。</p>	<p>●コロナ禍で行動に制限があり、地域行事やドライブなど出かける機会が少なかったが、ご本人とご家族のイベント(誕生日や結婚記念日など)を担当職員と一緒に祝い、関係構築に努めた。また、感染予防対策のもとバスハイクを実施し、ご家族も一緒に季節を感じる事が出来た。 ●認知症カフェに出席させてもらい、認知症の方の支援や接し方を伝えることが出来た。 ●広報誌にて地域住民に事業所を知っていただくとともに、相談してもらえよう連絡先を掲載した。</p>	<p>●感染状況にもよりますが、出来るようになるとう良いですね。 ●バスハイクなど外出行事が行われていた。 ●スタッフの人数が限られているなか、ドライブなど外出にも関わっている。 ●運営推進会議が行われ、地域の方が参加されています。 ●認知症カフェの出席などかかわっています。 ●相談窓口の連絡先を広報誌に掲載しており、関わりをもっている。</p>	<p>●コロナ禍以前に年2回実施していたバスハイクを、感染予防対策を徹底した上で再開していく。その際、ご家族もお誘いし、普段一緒に出かけていただけない方々にも楽しんでいただく。 ●担当職員との会話の中で知り得た本人の希望(やってみたい、行ってみたい)を実現させる取組みを実施し、ご利用者・ご家族との関係づくりや地域との関わりを深める。 ●認知症カフェ(オレンジカフェ)に継続して参加する。</p>

<p>E. 運営推進会議を 活かした取組み</p>	<p>●年間予定表の作成を行い、現場職員が運営推進会議に参加できるようにする。書面開催な場合は、引き続き部会にて現場スタッフに報告する機会を設けて意識付けを行っていく。 ●対面にて会議が実施できない場合は、事前に地域包括支援センターに地域における困難事例等をお聞きし、連携を図っていく。</p>	<p>●コロナ禍のため運営推進会議の対面開催が難しく、書面での開催が多かった。職員に対しては議事録の回覧を行い、他事業所や地域住民の意見を周知・認識してもらえようとした。 ●コロナ禍のため書面開催が多くなり、具体的な相談が直接できなかつた。</p>	<p>●運営推進会議に参加できる職員は限られているため、利用作成するときなどに、職員からの意見を聞いてみるのも良いかと思えます。 ●地域包括支援センターとは運営推進会議以外でも連携できると良いと思います。</p>	<p>●運営推進会議で委員の方からいただいた意見を、事業所の会議やミーティングなどで周知して地域の中での課題を理解するとともに、その意見について話し合い改善策を実践し事業所運営の発展に繋げる。 ●できうる限り多くの職員が会議に参加することで、事業所運営や地域の中での課題を理解する。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>●継続して老健あらまちとの合同避難訓練を実施し、安全且つ速やかに避難が行えるよう取り組んでいく。 ●各災害（地震・火災・水害）のシミュレーションを行いながら訓練を実施し災害時の対応に備える。 ●災害時のサポートや一時的な受け入れ可能文章を作成し、回覧板にて発信し施設を認識してもらう取組みを行う。</p>	<p>●老健あらまちとの合同訓練を企画し、地震・火災及び水害時の避難場所と経路の確認・消火訓練を実施し、有事の際、適切な対応が出来るよう全職員で共有した。 ●災害時のサポートや一時避難の受け入れ可能文章の作成・回覧には至らなかつた。</p>	<p>●合同避難訓練を実施する上で、課題や気づきもあつてと思いますので、現実的な対策となるようにしてください。 ●町内には独居老人などデイサービス利用者が多いため、災害時にはお互い協力し合えると思う。 ●プラット新町より防災体制計画相談時に加わることを了承してもらっている。</p>	<p>●近隣施設との合同避難訓練を実施し、得た課題や気づき・反省点などを振り返りながら、現実的な対策を立て、万が一の際に繋げられるようにする。 ●近隣施設や町内会などお互い協力し合える組織作りをするために、地域での防災体制計画相談時や合同防災訓練に出来る限り参加する。</p>